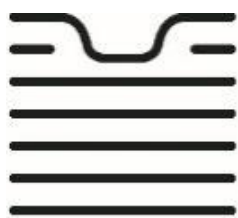


東北歴史博物館中長期目標

令和4年度自己評価

(令和5年3月末現在)

令和5年3月



東北歴史博物館

TOHOKU HISTORY MUSEUM

Ⅶ 東北歴史博物館中長期目標

開館以来の博物館を取りまく環境の変化への対応、さらに平成23年3月に発生した東日本大震災への対応という新たな課題に取り組むため、今後の当館の進むべきあり方を検討し、この度中長期に取り組むべき活動方針と達成目標を策定いたしました。

目標は、平成25年度から平成29年度までの5年間を中期目標と、30年度以降については長期目標と見なしております。なお、本計画は作成時点での諸事情に基づき策定したものであり、その後、県の財政計画の変更や組織再編などにより大きい変化が生じたときは、計画期間中でも必要に応じて見直すものとします。

また、本計画の推進のため館内推進組織を立ち上げ進捗状況を常に把握するなど、PDCAサイクルの考え方にに基づき、的確な進行管理を行います。

○ 活動方針

当館の新たなあるべき姿を実現するため、震災からの復興という新たな使命を加えた9つの活動方針を設定し、当中長期目標の達成に向け取り組みを進めてまいります。

1 常設展示・企画展示

何度も訪れたいくなる常設展示を目指します。また、利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。

2 教育普及

多様で親しみやすく、参加しやすくなる教育普及事業を目指します。また、学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。

3 調査研究

東北の歴史・文化等に関する調査研究を推進し、その成果を積極的に展示公開します。また、他の博物館・研究機関等との連携を深めます。

4 資料の収集と保管・活用

東北の歴史・文化に係わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。また、収集した資料を特質に応じて保存管理し後世へ継承します。

5 情報の発信

当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。また、インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。

6 県民参加

利用者のニーズが博物館の運営に十分反映されるよう努めます。また、博物館への県民参加を、積極的に推進します。

7 施設の整備・管理

利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。また、障害者等の方々安心して利用できる環境を整えます。

8 組織・人員

組織の再検証を進め、効果的・効率的な業務運営が確保される体制を目指します。

9 東日本大震災対応

県内の文化財レスキュー活動をリードし、その推進に努めます。また、震災復興を祈念する展示事業を積極的に展開し、さらに震災や被災文化財に関する調査研究を行い、常設展示事業での展開を目指します。

取り組みの概要

I 目的

平成11年10月の開館以来の博物館を取り巻く環境の変化や平成23年3月に発生した東日本大震災への対応という課題に取り組むため、中長期に取り組む活動方針と達成目標を策定し、平成25年度からの5年間の前期、平成30年度からの5年間の後期と位置づけ、より魅力的な博物館を目指して取り組みを推進してきました。

II 取り組み項目

後期の取組目標については、前期の達成状況と新たな課題を見極めた以下の9つの項目に16の活動方針と31の達成目標を設定しました。

重点目標として「“み”たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)」と「東日本大震災対応」の2つを柱に据え、関連する個別の達成目標を重点事業に位置付けています。

「“み”たい博物館」をテーマとして博物館の利用促進を図るため、すべての博物館活動を「発信・提供すべき価値」と「魅力ある情報」と位置付け、人々を魅了し「“み”たい」をくすぐる博物館活動の創造を目指すものです。

- 1 常設展示・企画展示
- 2 教育普及
- 3 調査・研究
- 4 資料の収集と保管・活用
- 5 情報の発信
- 6 県民参加
- 7 施設の整備・管理
- 8 組織・人員
- 9 東日本大震災対応

III 評価概要

取り組みの達成度は、全職員で行った職員自己評価の結果を基に、館としての評価を中長期目標達成推進委員会(館長、副館長、部班長で構成)でまとめています。

評価にあたっては、評価基準を「4：十分達成されている」、「3：ほぼ達成されている」、「2：やや不十分である」、「1：不十分である」の4段階で評価しており、総合評価は「ほぼ達成されている」で、各分野で設定した目標に対して取り組みが進んだものと評価しています。

個別の評価では、31の目標中、25の目標で「ほぼ達成されている」と評価し、「達成目標③、④、⑤、⑬、⑯、㉓」の6つの目標については「十分達成されている」と評価しました。

令和4年度 東北歴史博物館中長期目標達成実績(令和5年3月末現在)

東北歴史博物館は、中長期目標(後期)を達成するため下記事項を柱に据え、前期に引き続き9つの項目ごとに活動方針を設定し取り組みます。

- 1 "み"たい博物館情報の創造(はくぶつかん情報創造プロジェクト)
- 2 東日本大震災対応

1 常設展示・企画展示

コメント
<ul style="list-style-type: none"> ○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織することで、展示室等の更新・改善の方向性を議論する体制を整備した。次年度以降は議論をさらに重ねて更新を計画的に実施していく。 ○ 年度内の更新作業について検討し、総合展示室演出照明のLED化や雑貨屋のテレビ映像展示の更新など、展示室の機器更新を計画的に実施できた。 ○ テーマ展示については、新企画の実施と資料の入れ替えによって、館蔵資料の活用と展示の充実につなげた。次年度以降も魅力的な常設展を目指し、継続的に取り組む。 ○ 感染症対策を徹底しながら魅力的な展示の実施に取り組み、幅広い来館者の利用を促進できた。展示の準備・運営については進捗管理や分担などに課題もあり、今後、改善を図る。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 何度も訪れたくなる常設展示を目指します。	企画・学芸	①	◎	総合展示室のリニューアルを目指し、基本的な構想を策定します。	【企画部企画班・学芸部学芸班】 ○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織し、リニューアルの目的と今後予想されるプロセスを確認した。将来的な施設の大規模改修に伴う展示等のリニューアルについて議論・検討した。 ○ 常設展示等について、令和3年度にまとめた課題をもとに更新・改善の方向性を議論し、短中期的な更新と大規模改修で解決すべき課題について仕分けた。 ○ 年度内の更新作業について検討し、総合展示室演出照明のLED化を進め、雑貨屋のテレビ映像展示の更新などを計画的に実施した。	3	ワーキンググループを組織して、展示等の更新に取り組む体制が整えられたことは、次期中長期目標にもつながり、一定の評価ができる。
	企画	②		常設展示の充実を図ります。	【企画部企画班】 ○ 令和3年度にまとめた常設展示と施設に関する利用者アンケート等の分析を進め、常設展示と施設に対するニーズと改善への期待について把握した。 ○ テーマ展示について、新企画「新収蔵の近世絵画資料」、「多賀城跡出土漆紙文書」などを実施した。新企画以外のテーマ展示についても資料の入れ替えを行い、館蔵資料の活用推進と展示の充実につなげた。	3	テーマ展示は常設展示の中でも特に可変性があり、定期的に更新できる展示室である。何度も訪れたくなる展示を目指し、継続的に新企画実施に取り組んでいく。
(2) 利用者の要望をとらえ、時宜を得た魅力的な特別展示を目指します。	企画	③	◎	魅力的な展示を実施します。	【企画部企画班】 ○ 前年度の実績に基づいて改善点を検討し、感染症対策を徹底しながら魅力的な展示の実施に取り組んだ。全国規模の魅力的な巡回展を実施して貴重な資料に触れる機会を提供した。自主企画展は、宮城県と東北にゆかりのあるテーマと資料で構成し、日頃の研究成果を魅力的な展示として県民に還元した。 【開催した特別展】 春季特別展「知の大冒険 -東洋文庫 名品の煌めき」(巡回展) 夏季特別展「欲望の昭和」(自主企画) 秋季特別展「みちのくのサムライ」(自主企画) 冬季特別展「キングダム -信-」(巡回展)	4	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中で、展示内容を工夫して魅力を向上させ、来館者の高い満足度が得られている。今年度は4本の特別展を実施したことで、歴史と文化に触れる機会を多くの県民に提供できた。展示準備と運営については館内で共通認識を作り、適切な進捗管理を行う必要がある。
	企画	④	○	外部の巡回展を積極的に誘致し、幅広い利用者の来館を推進します。	【企画部企画班】 ○ 外部巡回展を実施し、幅広い利用者の来館を推進した。 【開催した展覧会】 春季特別展「知の大冒険 -東洋文庫 名品の煌めき」 ※ 歴史が好きな人だけでなく、書物が好きな人、教科書に載っている資料の実物を見た人など多様な目的をもった利用者の来館を得た。 冬季特別展「キングダム -信-」 ※ 作品の読者層である10代～50代という幅広い層の来館が得られた。漫画・アニメ・映画が好きな人など、普段当館の利用が少ないと思われる層の来館もあったと考えている。 ○ 令和6年度以降開催の巡回展について検討し、誘致に取り組んだ。	4	新型コロナウイルス感染症の影響で来館者数は伸び悩んだが、2本の巡回展を実施できた。今後も積極的に魅力ある巡回展を誘致し、幅広い世代の利用促進に繋げていく。

2 教育普及

コメント
<ul style="list-style-type: none"> ○ 感染症対策を徹底した上で教育普及事業の新規プログラムに取り組み、利用者のニーズを捉えた新鮮さを失わない事業を実施した。 ○ 各講座や体験教室・体験イベントについて、事業の充実と効率化に取り組んだ。特に秋の体験イベントについては、定員のあるプログラムについて予約制を導入し、混雑の解消と申し込み手続きの改善に繋がった。 ○ 地域の歴史や民俗行事について学校と共同授業を行い、学習支援を実施した。今後も学校の要望にあわせた学習支援の充実を図る。 ○ 利用団体の希望を聞き取りし、効果的な学習ができるように見学・利用コースの提案に取り組んだ。感染症対策も含めた学習環境の整備を継続し、安心して博物館ならではの学習体験ができるように務めた。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 多様で親しみやすく、参加したくなる教育普及事業を目指します。	企画	⑤	◎	各種講座・教室や体験イベントの開催に際し、利用者のニーズや興味関心をつかみながら、質的向上を図り実施します。	【企画部企画班】 ○ 感染症対策を徹底した上で教育普及事業を計画し、体験教室や体験イベントにおいては、「貝の名前を調べてみよう」、「石包丁をつくらう」、「円筒ハニワづくり」、「それいけ！ネコレース」などの新規プログラムに取り組み、利用者のニーズを捉えた新鮮さを失わない事業を実施した。 ○ 各講座や体験教室・体験イベントの参加者アンケートと動向を分析して改善点を検討し、事業の充実と効率化に取り組んだ。特に秋の体験イベントについては、定員のあるプログラムについて予約制を導入し、混雑の解消と申し込み手続きの改善を行った。 ○ 新規の参加者獲得に向けて、幅広い層が参加したくなる企画を計画し、広報媒体にも、人物を入れて体験の楽しさを伝える工夫をするなど改善を行った。	4	新型コロナウイルス感染症の影響は依然大きいものの、可能な限り各種講座・体験教室・体験イベント等を開催した。開催にあたっては、新たなプログラムを実施し、参加者の満足度を向上させている。特に体験イベントについては、申し込み方法の改善等により混雑の解消を図っている。
(2) 学校が博物館を効果的に活用できることを目指します。	企画・情サ	⑥		学校利用に対する学習支援の充実を図ります。	【企画部企画班】 ○ 利用団体の希望を聞き取りし、効果的な学習ができるように見学・利用コースの提案に取り組んだ。 ○ 学習シートの一部を更新し、常設展を利用して効果的に学習できる環境を整備した。 ○ 多賀城市高崎中学校と共同して、多賀城の歴史や日本画についての授業を行ったり、オンラインで栗原市の小学校と民俗行事の共同授業を行ったりするなど、学校の学習支援を行った。 ○ 学校からの依頼に応じ、職場体験の受け入れをに行った。 【管理部情報サービス班】 ○ 修学旅行等の学校利用団体に対して、利用申し込みの際にHPに掲載しているワークシート等の活用について、活用を促すなど伝えることで博物館での効果的な学習となるように務め学習支援の強化となっている。	3	学習支援の強化について、学校側の期待も大きく、今後も継続的に取り組み、一層の充実を図る必要がある。

3 調査・研究

コメント
<ul style="list-style-type: none"> ○ 調査研究事業は、博物館活動の基盤という意識を館員で共有しながら、県民の文化向上を目指した事業を推進するよう努めている。そのような中、調査研究の予算が逼迫する状況に鑑み、外部研究との連携や外部予算の獲得に努めた。 ○ 調査研究事業は博物館活動や県民に対し、展示及び各種講座等をおとしてその成果や情報が還元されてこそ事業として完結するものであることから、連携や資金獲得それ自身が「目的化」しないよう注意を払いながら事業を推進した。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に関する調査・研究を推進し、その成果を積極的に公開・普及活動の基盤とします。	学芸	⑦	◎	研究テーマや目的を明確化し、成果を積極的に公開します。	【学芸部学芸班】 ○ 考古、民俗、歴史、美術工芸、建築、保存科学など研究分野ごとに調査研究・成果公開の内容と予定を明確にした事業計画(単年度及び複数年度計画)を年度当初に策定し、学芸会議等で情報を共有している。 必要に応じて随時、成果と課題に関する議論と総括を実施しながら、いずれの分野も概ね計画通りに進捗している。これらの成果は、本年度の博物館事業として研究紀要等の出版物、県民を対象とした「れきはく講座」等による公開のほか、次年度以降の調査研究にも活用されるよう計画を進めている。なお、主な成果は、研究紀要は6件の論文・報告を行い、展示は、自主企画特別展2件、テーマ展示11件を実施するとともに、各種講座として「れきはく講座」が7件実施された。この他にも随時、特別展解説などを実施し、1人あたり2件以上の公開と地域への成果還元を達成した。	3	調査研究予算の削減や新型コロナウイルス感染症の影響など、直面する現実と折り合いをつけながら、業務は概ね順調に進行した。
	学芸	⑧	○	総合展示室リニューアルをはじめとする公開や教育普及、博物館運営等、博物館学的な研究をさらに推進します。	【学芸部学芸班】 ○ 博物館学的な研究については年度当初に策定した事業計画に基づき推進した。「文化庁指定文化財(美術工芸品)企画・展示セミナー」、「国立文化財機構奈良文化財研究所デジタルアーカイブ研修」、「公益財団法人日本博物館協会東北支部実務担当者研修会」等で研修・討議を進めるとともに、「文化庁公開承認施設担当者会議」及び「文化庁防災防犯対策研修会」を受講し、最新の博物館学を吸収するとともに博物館運営ならびに博物館学的研究を推進した。	3	対面による研修に積極的に参加している。また、オンライン研修へも積極的に参加している。これらにより、その成果を博物館運営に活かすとともに、博物館学研究を推進した。
(2) 他の博物館・研究機関等との連携を深め、調査・研究活動の質の向上を目指します。	学芸	⑨	○	調査・研究予算確保のため、外部資金の導入を図ります。また、他の博物館や研究機関・団体と連携協力して行う事業を展開します。	【学芸部学芸班】 ○ 外部資金として科学研究費では、令和2年度採択済1件、令和4年度採択2件、計3件を活用した。また、次年度以降の調査研究事業として新たに考古研究分野から1件を科学研究費に応募した。 ○ 外部機関との連携協力では、調査研究について大崎市、仙台市及び石巻市などの県内市町村、秋田県及び岩手県などの近隣県、筑波大学及び東北大学等研究機関を相手方として推進しており、これらの成果は特別展等の展示事業や講座等の教育普及事業など多岐にわたる当館の博物館活動に活用され、県民へ公開・還元された。また、博物館実習では15名の実習生と、東北大学連携大学院「文化財科学」等による学生1名の受入・指導をそれぞれ行い、将来の博物館を担う人材育成に貢献した。	3	外部資金は概ね計画どおり確保できている。今後も積極的に獲得に努め研究を推進するとともに、他機関との連携強化に努め、研究や人材育成をより一層推進する必要がある。

4 資料の収集と保管・活用

コメント
 ○ 文化財を未来へ確実に受け渡す責務を果たすべく、資料受納、収蔵品管理、収蔵環境管理、資料出納、情報公開など多岐にわたる業務を担っており、事業は概ね適正に推進した。
 ○ 浮島収蔵庫の老朽化への対応、同収蔵庫資料整理やデータベース充実化への対応などについては今後の課題であるが、今年度はその準備作業の一環として、移動に向けた資料総数の把握と業務量の積算を進めた。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 東北の歴史・文化等に係わる資料を系統的に収集し、その積極的活用を図ります。また、収集した資料の特質に応じた適正な保存管理策を講じ、後世へ継承します。	学芸	⑩		研究分野ごとの資料収集方針に基づき、計画的な資料収集を行います。	【学芸部学芸班】 ○ 資料収集方針に基づいた計画的な資料収集を進め、これまでに美術工芸資料1件1点の寄贈、歴史資料1件77点の寄託を受けた。また、次年度以降の資料収集に向けて準備作業を積極的に推進した。	3	事業は、資料収集方針及び資料取扱要領等の方針に基づき適切に進行した。
	学芸	⑪	◎	収蔵環境を整備し、より安定的な資料保全を図ります。	【学芸部学芸班】 ○ 収蔵庫等の温湿度の恒常的なモニタリング及び温湿度変動期の速やかな処置等を通して、温湿度の安定化をはじめとした収蔵環境の管理方法等の精査・改善を推進した。 ○ 浮島収蔵庫の考古資料特別整理にかかる資料総数の再確認及び業務量の積算を進めた。 【管理部管理班】 ○ 浮島収蔵庫で度重なる虫菌害への処置を積極的に推進した。また、同収蔵庫屋上陸屋根等からの大規模漏水についても防止策の検討とともに、防水工事実施に向けて関係機関との協議・調整を進めている。	3	本館収蔵庫の収蔵環境は概ね適切に維持されている。さらに、浮島収蔵庫については今年度は人員を投入し、とくに入念に保存環境の維持にかかる処置を進めた。また、将来の移動に備えた資料総数の再確認及び業務量の積算も概ね順調に進行した。
	学芸	⑫		収蔵資料のデータベースをさらに充実させ、インターネット等を活用して収蔵資料の情報公開を推進します。また、実物資料及び写真資料、図書資料の貸出・閲覧・撮影等にも適切に対応します。	【学芸部学芸班】 ○ 各研究分野で未公開資料ならびに新収蔵資料を中心に約140点の整理・データベース化を計画的に進めた。 ○ デジタルを含む図書資料約1,300点の登録整理・データベース化を推進し、公開した。 ○ 実物資料貸与約10件及び写真資料貸与等約50件、図書資料の閲覧・レファレンス約120件に適切に対応した。	3	事業は概ね計画どおり、かつ円滑に進行した。

5 情報の発信

コメント
 ○ 広報活動については、催事テーマに応じて広報先や方法を検討して効率的かつ効果的な情報発信を行った。
 ○ ロゴマークの活用について、バックの作成をミュージアムショップに働きかけ、認知を促進した。
 ○ SNSでのこまめな情報発信と特別展共催企業との連携によるSNSのTwitterフォロワーの拡大に務めた。
 ○ 特別展会期中において、メディアへの取材依頼の投げ込みを行い、複数メディアからの取材を受け来館促進に務めた。
 ○ デジタルサイネージを活用した広報、スマートフォンを活用した障害のある方への利便性の向上やSNS活用の広報を展開した。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	情サ	⑬	○	わかりやすいアクセス情報を提供します。	【管理部情報サービス班】 ○ 秋季特別展からは、東部道路仙台北IC及び多賀城ICを利用した来館者を想定した設置箇所の見直しを検討し、新規設置と廃止を実施しこれまで以上に効果的な案内看板となるよう工夫した。 ○ 2022.12→2023.3催事カレンダーの交通案内地図に当館駐車場に誘導するための「ナビQRコード」を配置し現在地から、当館までの道順を表示できるようにした。	4	周辺の交通状況の変化に合わせた道路看板の配置見直しや、パンフレット等へのナビQRコードの掲載などにより来館者の利便性が向上した。
	情サ	⑭	◎	多賀城市及び近隣市町との連携を強化します。	【管理部情報サービス班】 ○ 春季特別展期間中に多賀城市観光協会主催の「多賀城カレフェスティバル」や3年ぶりに開催された「あやめまつり」会場にて主催者と連携をとりながら、当館へ誘客を目的とした、PR活動及びチラシ配布を行うことで特別展の周知に務めた。	3	コロナ禍で停滞していた関係機関主催行事との連携が図られ誘客に繋がった。
(1) 当博物館の存在や活動・事業の内容等を積極的にお知らせします。	情サ	⑮		館のロゴを制定し、館のシンボルとして活用します。	【管理部情報サービス班】 ○ 来館者へのロゴマークの周知普及のため、来館者通路に、ロゴマークを中心としたのぼり旗を設置した。 ○ ミュージアムショップと連携し、ロゴマーク入りオリジナル不織布バックを制作し1月より販売を開始した。	3	ロゴマークの活用については当初停滞していたが、年度末に向け具体的な活用が図られた。
	情サ	⑯	◎	来館者の増加につながるような実効力のある効率的な広報を展開します。	【管理部情報サービス班】 ○ 各季特別展では企画部広報担当者や特別展担当者や連携し、毎回の依頼先に加えて展示会ごとに個別に依頼する広報先を特別展の趣旨や内容を考慮して選定し、ポスター・チラシの配布先を変えながら行った。 ○ SNS(Twitter)のフォロワー数が増えれば、発信する情報も沢山の人の目にするようになるが、今年度は特別展共催団体との協力もあり、年度当初900人台であったが、現在は2,000人を超えるフォロワー数となったことは成果として挙げられ、幅広い世代への当館の活動について理解を深めてもらう素地ができてきた。 ○ テレビ・新聞等へのプレスリリースについては、開幕式だけではなく会期中での取材依頼のメール等を行い、生中継やニュース報道により来館者が誘客された。今後も継続して同様の展開を行っていく。	4	共催団体とも協力しSNS等での情報発信に工夫がみられ、Twitterフォロワー数が大きく増加した。また、会期半ばでの働きかけにより情報番組での中継やニュースとして取り上げられ、会期後半の来館者の増加に繋がった。
	情サ	⑰		他館と連携した広報を行うとともに、館内掲示物を充実させます。	【管理部情報サービス班】 ○ デジタルサイネージを活用した宮城県美術館との相互割引、広報を継続実施を行った。7月からはミライIDの普及に向けて利用施設としての登録を行い周知普及に務めた。 ○ SNS(Twitter, Facebook)では、特別展をはじめとして催事等の情報を、こまめに発信ができたことで、事前の問い合わせが減少した。	3	ICT普及に合わせた他館との連携や利便性の向上、情報発信が図られた。
(2) インターネットを通じて情報の速やかで効果的、魅力的な発信に努めます。	情サ	⑱	○	ホームページを充実します。	【管理部情報サービス班】 ○ トピックス欄が文字情報だけだったため、写真を掲示し見やすいレイアウトとなるように改善した。 ○ ホームページ上の「週末イベント情報」をSNSと連動することで効果的な情報発信となった。	3	現環境下での充実が図られた。
	情サ	⑲		WEBや電子メールを活用し事業を促進します。	【管理部情報サービス班】 ○ 各種講座等催事の参加申し込み受付を「みやぎ電子申請サービス」にすることにより、事前にホームページの注意書き等を読む必要があるため、電話での対応が減少した。	3	電子申請サービスの活用が定着し、結果、電話等の問い合わせが減少し事務改善が図られた。

6 県民参加

コメント
 ○ アンケートの電子化の定着により集約の事務改善になり、利用者のニーズが素早く博物館運営に反映される素地ができた。
 ○ 円滑なボランティア活動が展開された。
 ○ 博物館友の会に対して各種企画立案等、様々な工夫をしながら自立した友の会運営のサポートに務めた。
 ○ キャンパスメンバーズ広報活動により加盟校も増え、割引制度を利用した学生の常設展示や特別展時の増加に繋がった。

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 利用者のニーズが博物館の運営に十分に反映されるよう努めます。	情サ	⑳	◎	来館者のニーズを把握し、そのニーズに対応します。	【管理部情報サービス班】 ○ みやぎ電子申請サービスを活用した催事アンケートを完全実施することで、これまでの紙ベースでのアンケート取りまとめに比べ事務処理時間が短縮し業務改善が図られ、速やかなデータ分析と情報共有が図られ、来館者ニーズへの素早い対応が可能となった。	3	電子申請サービスを活用したアンケート処理が定着し、素早いニーズの把握に繋がった。
(2) 博物館への県民参加を、積極的に推進します。	企画	㉑		館内ボランティア業務を円滑に運営します。	【企画部企画班】 ○ 感染症対策を十分に講じ、安心・安全なボランティア活動の場を提供した。 ○ 今野家住宅におけるボランティア活動については、内容・体制について感染症の情勢をみながら柔軟に対応し、円滑な運営を行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症の影響で、延期していた長期継続ボランティアについて表彰式を実施し、ボランティア登録者の意欲向上に繋がった。 ○ 体験イベントにおける大学生ボランティアについて大学関係部署と連携して募集を行い、学生の博物館活動への参加を推進した。	3	ボランティア活動については、感染症の情勢を鑑みた上で内容と体制をさらに整理し、円滑な運営を継続する必要がある。
	企・学・情	㉒		博物館友の会の活動に対し支援をしながら、自立した会の体制整備に向けて助言、提案をします。	【管理部情報サービス班】 ○ 役員を中心とした自立的な会の体制整備に向けて必要な助言や提案を行うことで、組織として機能し自立が進んでいる。特に、新型コロナウイルス感染症対策も整い、これまで休止していた外部での活動も再開し始めており、職員の若干の支援だけで実施できている。	3	自立運営に向けて各種企画立案・運営面での支援が行われた。
	情サ	㉓		大学等学校単位での利用を促進します。	【管理部情報サービス班】 ○ 今年度、勧誘パンフレットの改善や大学への働きかけにより聖と学園短期大学と放送大学宮城学習センターが新規加入した。併せて、割引制度を利用した学生の常設展・特別展の増加に繋がっている。	4	大学向け勧誘パンフレットの改善と働きかけの強化が新規加入に繋がった。

7 施設の整備・管理

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
コメント ○ 老朽化が進む施設の計画的な更新等を行った。今後も計画的な更新を進めていく。 ○ 次期情報システムの更新に向けて、全体構想をまとめるため館内での意見集約と協議を行った。							
(1) 利用者が利用しやすい施設・設備環境に向けて検証と改善を行います。	管理	24	◎	施設設備整備検討委員会で現状を再検証し、障害者や海外の方を含めた全ての来館者の安全と文化財の保全管理に配慮した施設設備を整備します。	【管理部管理班】 ○ 施設整備計画に基づき、以下の工事を順次実施し、来館者の安全と文化財の保全管理を図った。 講堂照明改修工事 空調機器類改修工事(R4~R5) 講堂音響映像設備改修工事	3	開館から20年以上経過し老朽化が進む中、施設整備計画に基づき必要な工事等を行った。今後は、次期中長期目標設定と併せて現在の常設展示を含め、老朽化対策と機能強化を目指し、施設設備の更新案を検討していく必要がある。
	情サ	25	○	情報システムを更新します。	【管理部情報サービス班】 ○ 令和6年12月の次期情報システムに向け要望等の取りまとめを行った。 ○ 講堂の映像配信システムについてアナログ映像からデジタル映像への改修工事を完了した。	3	次期情報システム更新に向けて関係者との十分な協議を重ねる必要がある。
(2) 災害時に博物館として、また県の施設として機能できるようにします。	管理	26	◎	災害時の施設利用・管理について取扱いを整備します。	【管理部管理班】 ○ 「危機管理マニュアル」について、内容更新と新たに「加除式ファイル版」として全職員に配布した。 ○ 仙台保健福祉事務所との大規模災害時における施設提供についての協定に基づく受け入れ備品の状況について確認。施設貸し出し時についての打ち合わせを行った。 ○ 新型コロナウイルス感染症対策として、サーマルカメラ、消毒液等の設置や、不特定多数が触れる場所の定期的な消毒作業等を行った。	3	災害時の来館者の安全確保と地域との連携を図るため、防災体制の強化・整備を進めた。

8 組織・人事

コメント ○ 博物館経営における課題解決に向け建設的議論を行い、部班間での協力体制を確保し、職員一丸となって取り組むことができた。 ○ 今後とも効率的・効果的な業務運営ができる組織を目指すため、適正な人員配置と協力体制の確保に努めていく。							
---	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 組織の効率的、効率的な事業運営が確保される体制を構築します。	管理	27	◎	部班の所管を検証し、必要な見直しを行います。	【管理部管理班】 ○ 部班の所管を検証し、適正な人数配置を行った。 ○ 災害対応時の体制について、機動的に行動できるよう、部班員の割当を改善した。	3	今後も、博物館活動を様々な視点から管理運営していくため、十分な知識・経験を有する人員の配置と若手職員の育成に努めていく。
	管理	28	◎	効率的な事業運営が確保されるよう部班間の協力体制の調整を行います。	【管理部管理班】 ○ 各事業について情報共有を図ることで、効率的な事業運営に努めるとともに、ハード・ソフト的に横断的な課題について、部班間で課題の共有を図り解決に向けて取り組んだ。 ○ 特別展及び行事については、必要人員数に応じ、部班を超えて協力体制がとれるよう調整を行った。	3	感染症対策や外部機関との協議においては、議論の透明性を図り、さらに部班間で情報の共有と連携協力し、課題解決に向けた効率的な組織運営を図っていく。

9 東日本大震災対応

コメント ○ 東日本大震災対応が一段落した現在においては、震災以後の各種災害への対応に軸足が移った。 ○ 災害で得られた貴重な教訓を今後どのように活かすべきか、その議論が深まった。 ○ 社会状況の変化を冷静に分析し、それに対応しながら、今後も県立博物館として果たすべき役割を追究する必要がある。							
--	--	--	--	--	--	--	--

活動方針	担当	No.	重点目標取組	後期達成目標	実績	委員会の評価	推進委員会の意見
(1) 震災復興に貢献する博物館活動を積極的に展開します。なかでも県内の被災文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。	学芸	29	◎	県立博物館として、県内の文化財の保全活動をリードし、活動全体を推進します。併せて被災文化財の修復や保存に関わる技術的な研究を進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 今年度は大きな災害に襲われなかったことから、対応実績はない。しかし、いつ襲うとも分からない次なる災害に備えて、これまでの実績をあらためて振り返り、今後の災害対応マニュアルの策定に向けた準備を鋭意進めた。また、東日本大震災で被災した具足など個人所蔵資料の経過観察を継続するとともに、東日本大震災の津波に被災した紺紙金字写経の経過観察が満了し所蔵者あて無事の返還が実現した。	3	当館が果たすべき役割をよく理解し、事業は概ね順調に進行した。
(2) 災害に関する調査・研究を進め、常設展示をはじめとする公開・普及事業での活用に取り組みます。	学芸	30	◎	災害と復興の歴史及び災害に関する資料の調査・研究を推進します。	【学芸部学芸班】 ○ 非常時を意識した低エネルギー低コスト収蔵手法の構築に関する研究を鋭意進めた。	3	事業は概ね順調に進行した。今後は成果の取り纏め及び公表に注力する必要がある。
	学芸	31	◎	復興祈念事業を展開し、震災から立ち上がろうとする県民の活力増進の一助とします。また、防災教育の拠点として災害展示の公開を目指した整備を進めます。	【学芸部学芸班】 ○ 令和5年度特別展「悠久の絆」(予定)を始め復興祈念事業にかかる調査研究事業を鋭意推進した。 ○ 東日本大震災への対応が一段落し、新たな災害への対応に向けた端境期にあるなか、これまでの経験及び情報の蓄積の整理を進めた。	3	事業はいずれも概ね順調に進行した。
総合評価	○ 常設展示等更新ワーキンググループを組織し、展示室等の更新・改善の方向性を議論する体制を整備し課題と改善案について職員の意見をまとめ、リニューアルの基本構想策定に向けて作業を進めている。特別展は冬季開催を含め4回開催し、感染症対策と展示の魅力向上を両立させ観覧者の高い満足度を得た。特に外部巡回展では新たな層の利用者を獲得した。 ○ 「教育普及」では、各種講座・教室・体験イベント等について、感染症対策に留意しながら円滑に運営した。学習支援についてニーズを収集・分析し、歴史と文化に対する興味関心をより高める内容で実施した。 ○ 「調査・研究」では、博物館活動の基盤との意識を共有し、外部研究機関とも連携し、各研究分野ごと概ね年次計画どおり事業を進めた。 ○ 「資料の収集と保管・活用」では、方針や年度計画に基づき事業を進めた。 ○ 「情報の発信」では、利用者目線に立脚しながら費用対効果や媒体の最適化を進め、利便性向上に努めた。 ○ 「県民参加」では、引き続きアンケートの電子化等によりニーズ把握の迅速化に努めた。感染状況を見極めながらボランティア活動を展開し、友の会の自立的運営に向け支援を行った。積極的な広報活動により新たにキャンパスメンバーズ2校を獲得した。 ○ 「施設の整備・管理」では、安全・安心・快適な博物館運営を目指し計画的な施設整備を行った。次期情報システム構築に向けた取りまとめを進めている。 ○ 「東日本大震災対応」では、社会の変化や成熟に対応しながら、本館が果たすべき役割を考慮しつつ、新たな視点や価値観を積極的に取り入れ事業を推進した。					3	○ 今年度も新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けたが、今年度の実績及び成果を踏まえ「ほぼ達成されている」と評価する。 ○ 次年度からは第2期中長期目標が開始となるが、本館の設置理念を着実に具現化するとともに、社会の変化や成熟に対応しながら、新たな各種目標の取組を進め、館のさらなる利用促進に繋げていく。

◎: 中長期重点目標 ○: 令和4年度重点目標(取組)